

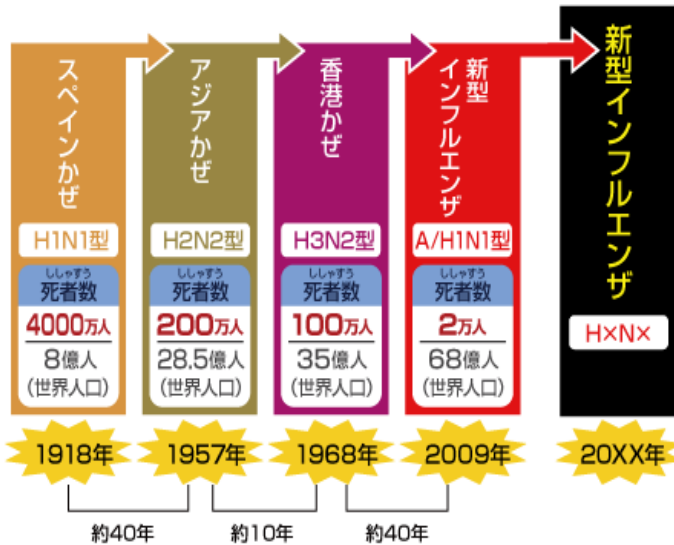
ICT ニュース 2025/12 月

2025/12/16 発行 ICT/感染管理委員会

インフルエンザウイルスが猛威を振るっており、警報レベルが継続しています。
例年より1ヶ月早い流行ですが早いから早く終息するわけではありません。職員の罹患者も増加していますが、幸いにも患者さんへの拡大がないのが救いであります。
今回はインフルエンザの歴史を振り返りながら、感染対策について皆さんと勉強していきましょう。

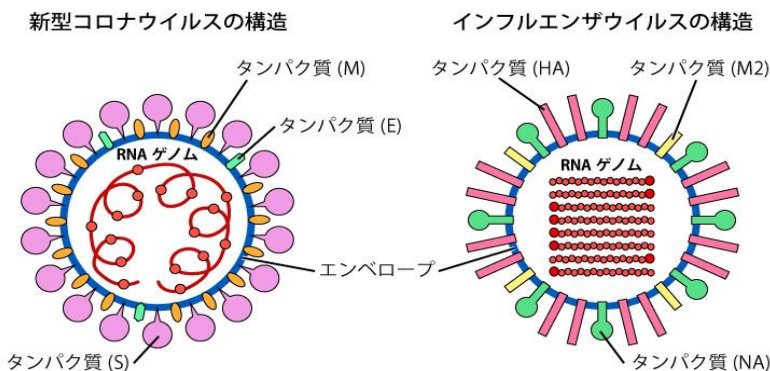


●インフルエンザウイルスの歴史



インフルエンザウイルスは元々、野生の水鳥や渡り鳥が保有しており、長い年月をかけて共存関係が構築されてきたと言われています。そのため、ウイルスがそれらの腸内や気道で増えても、通常は何らかの症状が出るわけではありませんが、そうした水鳥や渡り鳥が放出する糞にはインフルエンザウイルスが含まれています。そのため、水辺に放たれたウイルスはアヒルなど他の水鳥や渡り鳥に広がっていき、そこから、このウイルスが家畜として飼っている鳥類や豚などに感染し、動物種の間で感染を起こして変異を繰り返しながら、時に人に感染しやすいウイルスとなってインフルエンザの流行を引き起こしているのです。

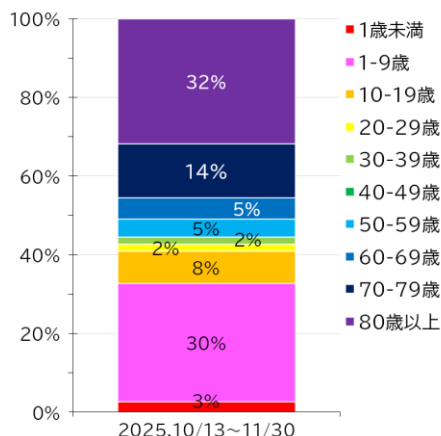
●インフルエンザとコロナウイルスの違い



両方ともタンパク質の殻の中にゲノム(遺伝物質)が入ったウイルスで、エンベロープと呼ばれる脂質膜で覆われており、アルコール消毒の効果があります。新型コロナとインフルは表面についているタンパク質の種類が違うため、対応する受容体も異なることから、コロナの方が影響を受ける臓器も多岐に渡ると考えられています。インフルエンザは抗原スパイク(HA)(NA)が変異を起こすため、毎年流行が左右されます。

現在は H3N2 型 (サブクレード K) が流行中

●インフルエンザワクチンは接種しましたか？

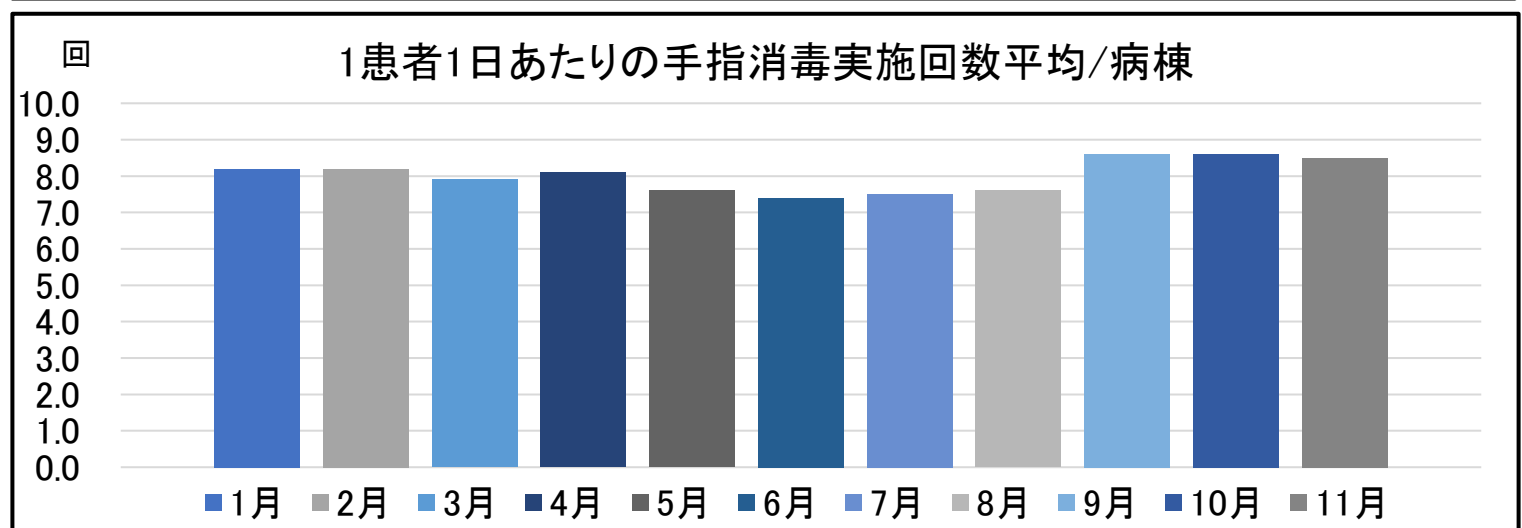
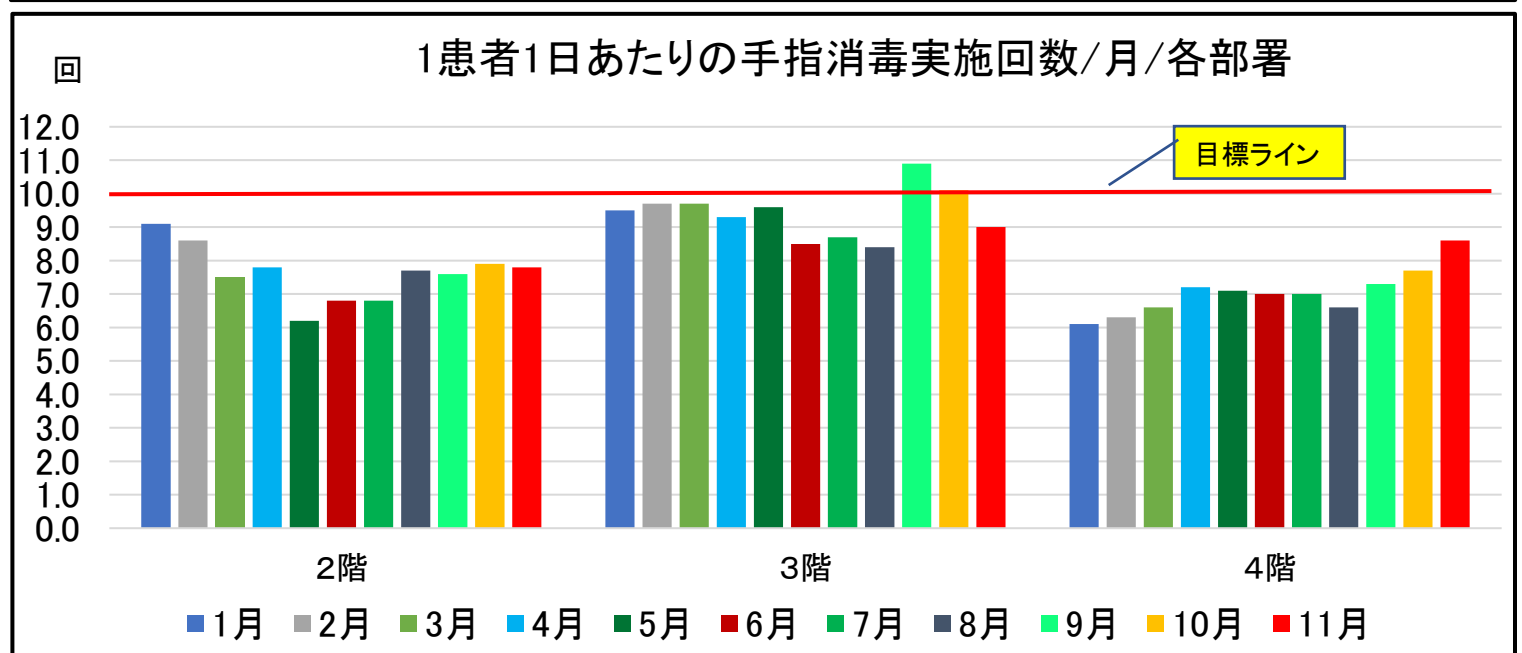
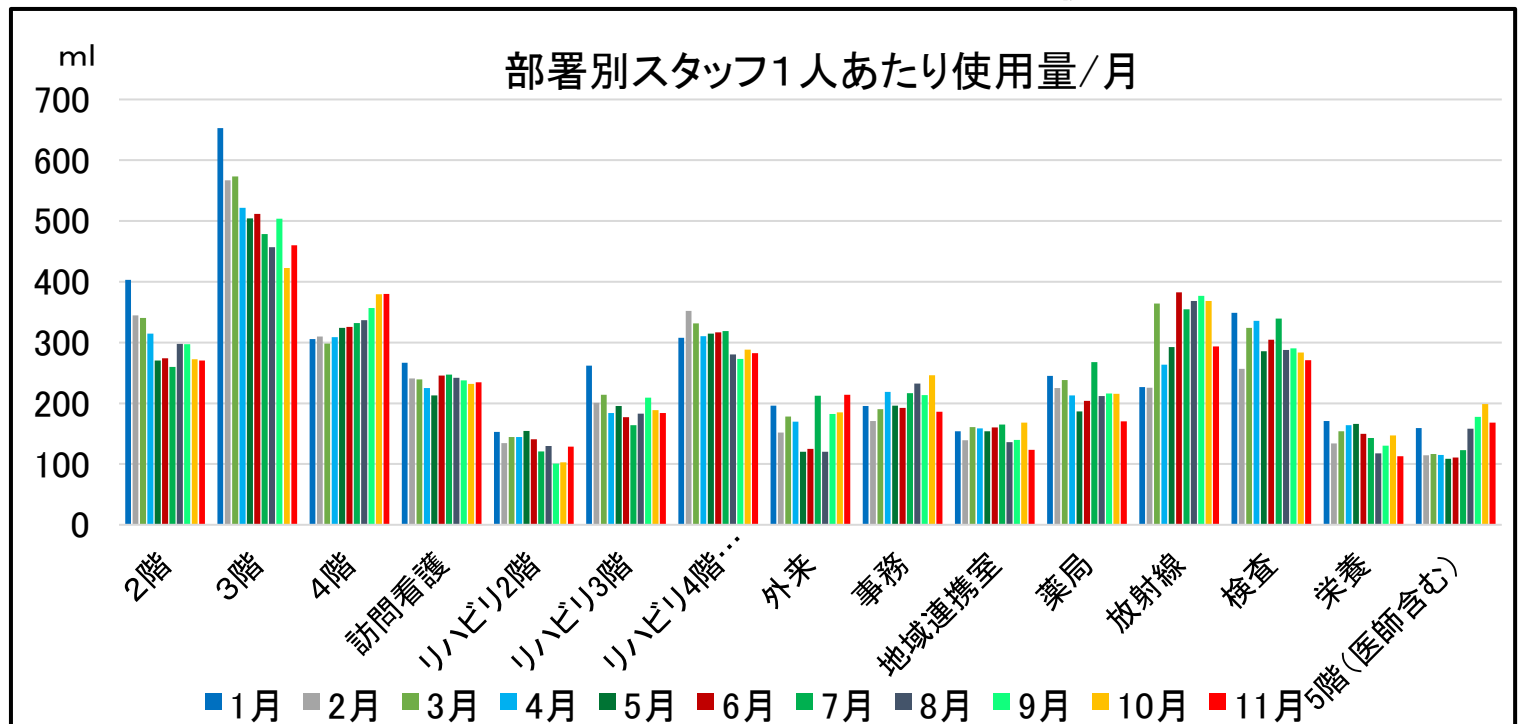


今シーズン(2025-26シーズン)のインフルエンザ流行期における、県内の基幹定点医療機関(10病院)での1週間新規入院患者を累計した集団の年齢分布

- ・ 80歳以上が最多で全体の約3分の1を占め、次いで1-9歳が多く、約3割
- ・ 70歳以上が、約半数を占める
- ・ 20歳未満は、約4割を占めている

以上のことから感染対策はもちろんですが、ワクチン接種が済んでない方はできれば12月中に接種をご検討ください。但し、接種してから約2週間後に抗体がつくのでその間は気をつけてください。また接種すれば罹らないというわけではありませんが、重症化を防ぐことができます。当院でも接種できます。

★2025 年アルコール手指消毒剤使用量



※病棟では実施回数が減少した部署があり、病棟以外でも使用量が減少しています。
インフルエンザが流行しており、職員の罹患率も増加していますので手指衛生励行につとめましょう。